

# ふれあい新聞

春号



「かみさの家 梅と水仙とはなこ」

発行日 平成 25 年 4 月 1 日 第 49 号  
発 行 社会福祉法人 瑞穂会  
ふれあい新聞編集部  
本 部 〒 4 4 4 - 0 9 3 6  
岡崎市上佐々木町字大官 49 番地  
TEL (0564) 3 4 - 3 6 6 6  
FAX (0564) 3 4 - 2 3 4 7



## 「二十五年度 始動」

特別養護老人ホーム やはぎ苑

施設長 近藤 静子

現在、日本の世帯構造は、近年多様化が進み、独居生活者が28%・高齢者夫婦が33%・介護保険成立前に言われていた3世代同居にいたっては、現在10%にも満たない状況となっています。このような現況では、在宅に介護力があるとはとても言いきれません。実際に、100歳を超えた親御さんを、70過ぎの息子さんが看取っていたり、逆に年老いた親御さんが、介護が必要な息子さんの面倒をみているといった世帯は少なくありません。今日もなお、在宅介護に限界を感じ将来に不安を抱える多くの地域住民の方々が特養の申し込みにみえて、一向に入所者待機者数は改善されなままです。

しかしながら、厚労省が「施設から在宅へ」・「地域介護」を基本方針としている以上課題は山積していても対応していかなければなりません。

一方私たち福祉の職場環境は、未だ以って慢性的な人員不足が解消されず、厳しい状況に変わりはありません。また、この4月から高齢者雇用安定法が改正され、希望者全員を65歳までの雇用が義務付けられました。最近こうした少子高齢化の急速な進展を踏まえ、次世代の労働力を確保するため、働きながら私生活も充実させられるように職場や社会環境を整えること

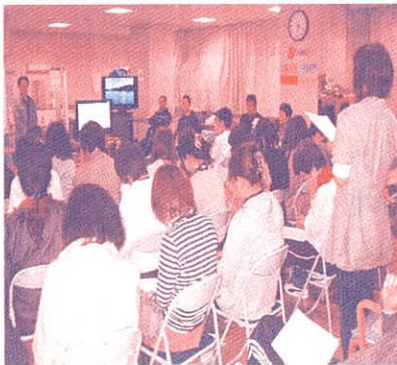
をさす「ワークライフバランス」(仕事と生活の調和)や人種・国籍・性・年齢を問わずに、働きやすい環境を構築し、人の力を引き出し企業の競争力に活かそうという考え方や取り組み方を指す「ダイバーシティ」という言葉をよく耳にするようになりました。

そんな中、やはぎ苑では、一旦退職した職員が再び戻って仕事についてくれるケースが多く、嬉しい限りである。こうしたママの笑顔を守るためには、施設側とママたちの家族と、勤務時間や休暇の取り方の調整を十分話し合うことが必要となります。そしてなにより大切なのが一緒に働いている職員同士が、お互いの事情を考慮しながらそれぞれが地域の一員・社会の一員として働いていることを理解する事ではないでしょうか。

これからも、「お互い様」の言葉と職場の笑顔が、家に帰ってからも子供たちの大好きなママの笑顔に繋がりを、延いては、将来を担う子供たちの発達を円滑にするのではないだろうかという考えのもと「やめない組織づくり・人材教育」をめざし、25年度を始動します。



4月1日 辞令交付



3月28日 やはぎ苑・第二やはぎ苑 全体会議

# 平成二十五年度に向けて

特別養護老人ホーム くわがいの

施設長 手嶋寛人

昨年4月の介護保険制度改正とそれに伴う介護報酬改定により、介護の現場は大変厳しい対応を迫られております。

施設関係サービス（特養、グループホーム等）の介護報酬、特に特養の多床室単価が大きく引き下げられた影響で、大半の施設が減収を強いられ、訪問介護や通所介護ではサービスの時間区分が大きく変更され、ご利用者の満足度の維持・向上と減収回避の両立を目指し、サービス提供体制の見直しに迫られました。また、同時に行われた介護保険制度改正では、24時間対応の訪問看護・介護サービス、小規模多機能型居宅介護と訪問看護が合わさった複合型サービスの創設等、地域包括ケアの名のもと、「施設介護」から「在宅介護」への路線も鮮明に打ち出されました。

さらに、平成26年4月、翌27年10月と、段階的に10%に引き上げられる消費税は、法人が行っている事業がご利用者に増税分を転嫁できない非課税事業であるため、事業者が負担せざるを得ず、法人・施設運営に大きな影響を与えることは確実であり、事業環境はますます厳しくなります。

一方、介護保険制度がスタートして13年が経過しましたが、黒字施設、赤字施設の二極化が進んでいます。厚労省による介護保険事業経営概況調査（平成22年度）によると、収支差15%以上の黒字施設が31%ある一方、赤字施設は28%あります。同様に職員の定着率においても、離職率の低い、高いで二極化しています。介護労働実態調査（平成21年度）によると、施設に勤務する介護職員の離職率は19.3%ですが、離職率が10%未満だった施設が39.6%ある一方、離職率が30%以上だった施設が24.5%もあります。介護業界を取り巻く事業環境は年々厳しくなっていますが、この変化に的確に対応し、一步先を読む先見性と先見性に基づいた経営戦略がいかに大事かを物語っています。

このような状況下、社会福祉法人瑞穂会は平成25年度を、

- 1 将来の事業展開、大規模修繕等に備えるための内部留保の確保
  - 2 法人経営における戦略の中心である人材の確保・育成
  - 3 魅力ある職場・やりがいの持てる施設にするための労働環境の整備
- の3点を目標に掲げ、ご利用者の皆さんには一定の品質で同じサービスを将来にわたり安定的に継続して提供し続けることができるよう、職員の皆さんには生涯設計が可能な職場となるよう、法人にとっては財務基盤の確立を目指し、「勝ち組」となるべく全力を挙げてまい進します。



# 新入職員紹介



message

- ① 池田 美咲 (イケダ ミサキ)
- ② やはぎ苑
- ③ 明るく優しい。ソフトテニスを始め球技が得意です。
- ④ 一人一人の入所者の方と関わる時間を設け、入所者の方の思いを大切にしていきたいと思っています。



POST CARD

message

- ① 名前
- ② 勤務先
- ③ 長所 特技
- ④ 今後の抱負



message

- ① 筒井 晶子 (ツツイ ショウコ)
- ② やはぎ苑
- ③ どんな事も諦めず最後までやり抜くこと。特技はバレーボールです。
- ④ 入所者の方を尊重して、入所者の方から頼りにされる職員になりたいです。



message

- ① 宮下 聖矢 (ミヤシタ セイヤ)
- ② やはぎ苑
- ③ 長所は元気。特技は前方倒立回転とび・跳ね起き・立ちブリッジ
- ④ やはぎ苑の入所者の皆様のお役にたてるように頑張りたいです。



# 平成25年度



message

- ① 三浦 航太郎 (ミウラ コウタロウ)
- ② くわがい
- ③ 長所はおおらかな性格 趣味として水泳が大好きです。
- ④ 皆様に愛される職員になれるように精一杯頑張ります。



message

- ① 藤井 竜平 (フジイ リョウヘイ)
- ② 第二やはぎ苑
- ③ 長所は気長で何事もポジティブに考えるところ
- ④ 常に笑顔で心がけ入所者の方と関わっていききたい。



message

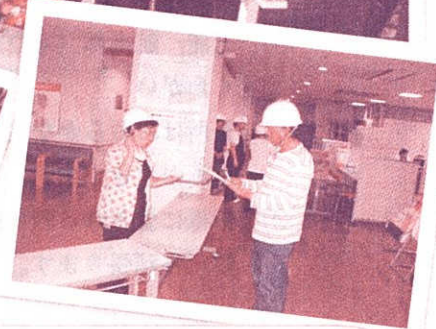
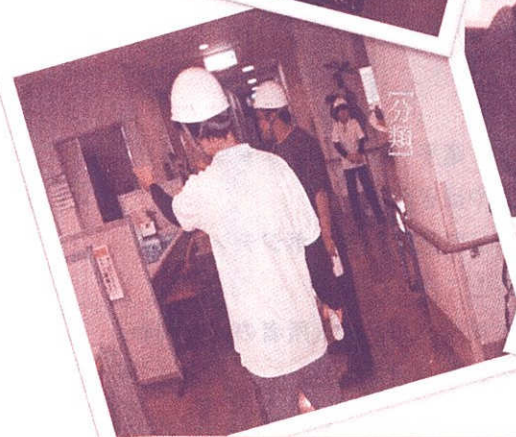
- ① 鈴木 菜摘 (スズキ ナツミ)
- ② くわがい
- ③ 体を動かすことが好きです。
- ④ 皆さんから、明るくて話しやすい！と思って頂ける様な介護士になりたいと思っています。これからよろしくお願ひします。



message

- ① 林 佑香 (ハヤシ ユカ)
- ② くわがい
- ③ 卓球が得意です。
- ④ 人見知りな私ですけど、入所者の方や面会に来られた方々に気持ちよく過ごしてもらえるように精一杯頑張りたいです。





## 災害時給食担当研修会

平成二五年二月六日

岡崎げんき館

管理栄養士

鈴木 悠見

平成二五年二月六日 岡崎げんき館にて、「災害時における給食対応に関する情報交換・研修会」が行われました。

研修会では、各施設の防災対策状況（備蓄品の内容・保管場所）・岡崎市民病院と岡崎市保健所について、マニュアルを参考にしながら、追加した方がよい点や課題等を話し合いました。その一例として

- ① 缶詰の備蓄食品は、ゴミの問題や開ける手間がかかるため1ケースで何食分かまとめて作る事が出来る物の方が便利なのではないか？
- ② 給食担当者以外の職員でも、食事が提供できるように、盛り付け図を分かりやすい場所に貼っておくと良いのではないか
- ③ マニュアルがあっても、それが職員に周知されているか？等々、どの施設も挙げたらきりがなくらい検討すべき事があるものだと感じました。

非常時においては、ライフライン（電気・ガス・水道）の供給が不能となり、調理器具の破損も想定されます。そのような最悪の状況の中でも、継続的に食事を提供していかねばなりません。給食施設の機能が停止してしまう緊急時に、どのように食事を提供していくか、近い将来起こりうると言われる南海トラフ巨大地震にも備えて、さらなるマニュアルの整備・防災訓練の実施・地域との連携等、平常時からの対策が急務となっています。

今回の研修会では、日頃なかなか聞く事が出来ない他施設との情報交換できて、とても勉強になりました。



## 『今年度の反省と来年度に向けて』

介護主任 岡田進太郎

私たちくわがいの介護職員は平成24年度、1年間の目標として『介護技術の向上』『認知症の理解』『24時間シートの活用』の3本柱を中心に日々の介護に取り組んできました。取り組み結果と来年度の目標をご報告させていただきます。

## い が わ く

### 『介護技術の向上』について

この一年間くわがいで生活されている、また新たに入居され生活を始められるお一人お一人の状態を把握し、介護主任とユニットリーダーを中心にその方にとっての最善の介助方法(方向性)を模索し、統一することで、ご本人の持つ現有能力を低下させないように援助に努めまし

た。ただ、介護技術は一度、統一を図るとケアが画一

的になってしまう傾向があります。個々の状態像(身体の動きや心の働き)は日々、変化をしているものです。

ケアの方法や現有能力の維持・向上などへの工夫が臨機応変に対応できるように来年度は現任研修での講義やスタッフミーティングの場で介助を受ける側の体験(グループワーク及び演習)を学びの機会とし、介護事故の減少に繋がりたいと考えています。



～グループワークの様子～  
(体位変換について)



～外部講師を招いて勉強会～  
(認知症について)

## い が わ く

### 『認知症の理解』について

この一年間は認知症そのものの理解を深める為の勉強会やユニットミーティングの活用を図るとともに『回想法』を学び、実施してきました。各ユニットでは個人個人の状態や関係に配慮しながら参加メンバーを決定していきました。色々な題材でお話を進め、職員が教えて頂くような内容も多くありました。今年の敬老会では昭和をモチーフとした飾り付けを全体に施し、所々、皆さんとの会話に花が咲き、とても活き活きとした表情を見せて下さいました。

来年度は『回想法』を定期的に実施することと、外部講師を招き、認知症の更なる理解を目指していきたいと考えています。



～あるユニットの一角です～  
(土間をイメージ)



～敬老会のワンシーン～  
(紙芝居を熟演)

### 『24時間シートの活用』について

担当職員が入居されている方の情報を多角的に集め、24時間シートへ落とし込む事は全員の方に対して継続的に行えており、シートを見ながら、個々のケアに結びつけるようになってきていますが、まだまだ基本となる『聞き取り』の力に関しては職員個々の能力には差もあることから、今年度はアセスメント能力向上の為の勉強会の実施を進めていきたいと考えています。



# グループホーム かみさの家

チューリップの花壇を作りました！！



新年号にも掲載しましたが、現在かみさの家の畑にはチューリップの球根が100個植えられています。

3月某日、晴れの日職員・利用者みなさんと一緒に1日かけて畑の整備を行いました。職員が電動ノコギリで太い丸太を切っている間に、利用者さんは球根が植えられている畑の雑草取り。暖かい日が続いていたこともあり、思っていた以上に雑草が生えていました。鎌を持ち、チューリップを踏まないように。でもそこは、昔取った杵柄。みなさん手際良く行い、職員一同感心してしまいました。



作業が終わった時には職員も利用者さんもクタクタに。でも、完成した花壇を見てみなさんとても喜ばれていました。

今年は季節の花や野菜など沢山植えていこうと計画しています。憩いの場として地域の皆様にも気軽に立ち寄って頂きたいと思っております。職員・利用者一同お待ちしております。



暖かい季節となり、かみさの家の利用者さんもお散歩等で外へ出掛ける機会も増えてきました。



毎日の散歩が  
日課です。気軽に  
声を掛けて下さ  
いね！



地域密着型小規模特別養護老人ホーム

# 第二やはぎ苑

## 平成24年度 運営推進会議の報告

第二やはぎ苑（特養・多機能）では、ニヶ月に一度運営推進会議を開催しています。

去る3月14日（木）に、

【第6回運営推進会議】を、  
開催いたしました。

本年度最後となるため、

『グループホームかみさの家 運営推進会議』と合同開催をし、情報交換をしました。

当日は、総勢18名の皆様にお集まりいただくことができました。

『運営推進会議』とは？

地域密着型の事業者が、利用者・地域住民・福祉関係者などに対し、施設を知っていただき、地域と「連携」をしていくための会議です。年に6回開催することが法律で義務付けられています。

当日の会議の内容

- ① 各施設の24年度の取り組み報告  
(プロジェクターで写真をご覧いただきながら施設の1年間の様子をご報告しました)
- ② 各運営推進会議の取り組み報告  
(『かみさの家』と『第二やはぎ苑』それぞれの会議の取り組みを報告しました)
- ③ これからの運営推進会議について  
(他法人が取り上げている議題や、議事録をご覧いただきながら、今後の運営推進会議についてご相談をしました)

会議の会場は、25年1月に竣工した、橋目本町の新しい公民館をお借りしました



3月14日 運営推進会議の様子

### 平成24年度 運営推進会議の取り組み

- 5/21 24年度目標を「ボランティア受入・防災」に設定
- 7/1 町内の方対象にボランティア講座を開催
- 7/30 ボランティア講座の報告、地域防災との連携
- 9/11 ボランティア活用のための助言をいただく
- 10/28 学区総合防災訓練へ参加
- 11/26 外部評価・監査報告、職員の研修体制
- 1/26 餅つき会の開催
- 3/14 振り返り（かみさの家合同開催）

会議の内容は、

- I. 事務所で会議録を公開しています。
- II. 橋目町内の皆様へ回覧板で報告をしています。



平成25年度も、皆様のご協力をいただきながら、地域に根ざした福祉拠点として、またご利用の皆様により良いサービス提供をするために、会議を開催してまいります。



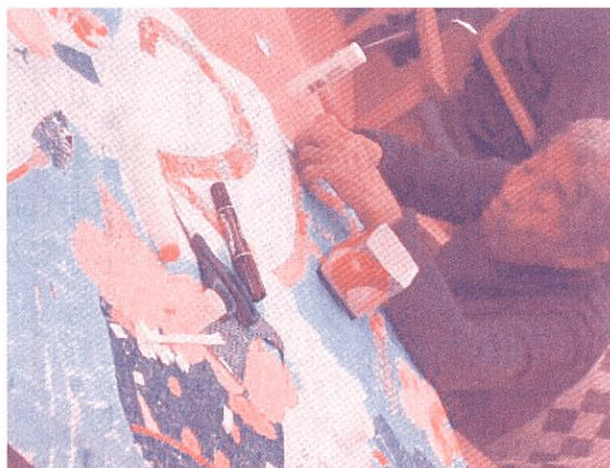
# 小規模多機能やはぎ苑

小規模多機能やはぎ苑では、利用者の家族の方をはじめ、地域住民の方々、ボランティア団体の方々にお越しいただく機会を多く取り入れたいと考えています。

昨年秋に受けた外部評価では評価員の方に地域に根ざした施設運営に向けての取り組みに期待したい、というアドバイスを頂きました。私たちの職員間の会議でも、地域住民の方々にいつでも訪れてきたくなる場所を目指していこう、という目標を立てて行なっていくことを確認しました。また、利用者の方の過去の生活歴を振り返り、昔会っていた知り合いの方とのお出かけ支援や行きつけの店に久しぶりにでかけたり・・・など在宅地域での社会生活の継続に力を入れて取り組んでいきたいと思っています。そのため、今まで以上に利用者の方や家族の方と話をする時間を多く取っていききたいと思っています。



小規模多機能のフロアに毎月利用者の方々が作成して頂ける季節の貼り絵が展示されています。春は桜、初夏にはホタル、夏には花火、秋にはコスモスや紅葉、冬には初詣にでかけた風景など季節感を感じて頂ける作品ばかりです。第二やはぎ苑にお越しいただいた際には是非小規模多機能のフロアにお越しいただければ、と思っています。





# 今話題

災害時にも役に立つ

## ポリ袋調理法

ポリ袋でカレーとご飯を作ってみよう

### ごはん

- 1 2重にしたポリ袋の中に米と水をいれて空気を抜く
- 2 沸騰した鍋の中に材料の入ったポリ袋を浮かべ30分間煮る。

材料 (1人分)	
米	100g
水	130ml

- 3 ポリ袋のまま容器に被せて食べる。(洗いものが減り、水の節約になる。)

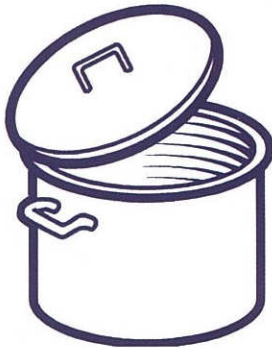
### カレー

- 1 材料を切る(細かいほうが煮えやすい)
- 2 袋の中で固形ルーを水で溶かし、その中にその他の材料も入れ、袋の中の空気を抜く
- 3 沸騰したお湯の中に袋ごと入れて30分煮る。
- 4 一緒に入れておいたご飯にかける

材料 (1人分)	
じゃがいも	80g
玉ねぎ	80g
人参	30g
ツナ缶	1/2缶
カレールー	固形1個
水	50ml

ポリ袋レシピ ここがスゴイ!!

- ①油を使わずカロリーオフ!
- ②旨み&栄養を逃がさない!
- ③少ない調味料で塩分控えめ!
- ④真空調理で煮崩れなし!
- ⑤熱伝導率CO<sub>2</sub>で調理時間短縮!
- ⑥鍋ひとつで同時調理!
- ⑦洗い物が少なく楽々!



## 「ありがとうございました」

(寄付・ご寄贈(戦二十五年一月〜戦二十五年三月))

- \* 新道 美恵子 様
- \* 神谷 好政 様
- \* 山崎 鉦司 様
- \* 太田 陽子 様
- \* 柴田 壽美子 様
- \* 鶴田 芳治 様
- \* 大郷 哲彦 様
- \* 匿名希望 様

## 編集後記

春の日差しが眩しいくらいよく晴れたある日、車を走らせていると、ラジオからコブクロの「YELLOW&ERL」という曲が流れてきました。その歌詞が、今の時期にピッタリなので紹介します。

どんなに小さなつぼみでも 凍える冬を越えればほら  
春が来るたびに 鮮やかな花が咲くのだから  
あなたが今日まで歩いてた この道まちがいはないから  
春には大きな 君が花になれ

見送る友の顔に目を伏せ 走り出す窓に  
もう戻れない その不安を  
希望だけじゃ断ち切れないでいるけど

今 君は門出に立っているんだ 遙かなる道をゆくんだ  
誇り高き勇者のよう 風立ちぬその道のどこかで  
君をさがしてるんだ 誰かが君をまつてるんだ  
思い描く夢のよう いつの日かその目に映せ

新たに瑞穂会の一員となる新人職員のみなさん、一緒にがんばっていきましょう。